



ハレー彗星

1985年11月14日 02m00s~10m15s

メトカーフ法 E-200 トライX6×7判

撮影 肥島敬啓

ハレー彗星 NOW !

艶島 敬昭

後ろも見ずに . . .

今春熊本へ帰り着き、定例総会の場で「ハレー・フィーバーの波の先頭を駆け抜けよう！」と呼びかけて以来、今日まで、本当に「後ろも見ずに」駆けて来ました。

原稿の依頼を受け、未整理の写真を手元に広げて見てみると、8月中旬のシミのようなかすかなハレーの像と11月14日の大きく広がったコマの像との、あまりの違いに只驚くばかりです。この分だと予想以上の明るさにまでなってくれるのではないかとさえ思う程ですから。

E-200の据付が一段落して、何となく落ち着かない気分のまま8月中旬となり、8月14日からハレー撮影に挑戦。幾度かの失敗の末、8月26日に宮本氏との苦闘の“星つぶし”によってやっとハレー彗星の同定に成功。8月25日の小林昌樹氏の必死のガイド撮影による写真が熊日紙面をかざったのでした。

この10日余り、重い責任を背負い睡眠不足と闘いつつ、さらに熊日Y氏の催促に耐え続けた経験は、さすがに76年に1度の「ハレー彗星」だからこそ味わえたものでしょう。

その後、ふとした事がきっかけとなり、某放送局よりⅠ、Ⅱ（イメージ、インテンシファイア）を借用することが出来ました。光→光電子 → 4万倍増幅→光という強烈なしろものですから、これを活用しない手はありません。

早速、永井先生の最新式のVTR装置一式をお借りして星空撮影にとりくみました。

最初に写したのはジャコビニ・シンナー彗星で、8.8等級位の時、しかも満月の夜でした。この時の画像は、ハレーとジャコビニ・シンナーがすれ違った頃TV放映されました。その後、ハレーの撮影にも成功（約12等級）、これもTV放映されました。残念ながら、カニ星雲の側をかすめる姿は、ぶ厚い雨雲にさえぎられて見る事さえかないませんでした。

最近、ハレーが9等程の恒星とニアミスする様子をビデオに収めたり、スバルに近づく頃にも撮影しました。天文台にテープが置いてありますのでぜひご覧下さい。

ハレーの光度がグーッと明るくなる頃、私と小林寿郎君とは秘かに打合せをして、メトカーフ法によるガイド撮影に取り組む事を誓い合い、準備を始めました。10月中旬の事です。

それから、津村光則氏のメモ（天ガ12月号の記事と同じもの）入手して必死に解読を試み、津村氏のたどった道すじを追いかながら何とか自分なりに理解できた頃、運良くT'S製メトカーフ用ガイド装置一式を入手できました。ところが、同時に手配を進めていたMGC（メトカーフ・ガイ

ド・クロック)がちょっとしたミスで完動してくれません。

何が何でも、メトカーフ・・・

高橋製作所の広告も、一時期「メカトーフ」と誤って書かれていて、あれはメカがトーフなんだろうと悪口を言っていた私達でしたが、まさか「メカトーフ」なMGCが出来上るとは考えていませんでした。製作者を責めても仕方ありません。そこでざっとハレーの動きが45秒ごとに3.3秒角になつていそうな頃合だと思ったのでメトカーフ法による撮影に挑戦しました。MGCナシで。

メトカーフ法は、すでに御存知の方も多いと思いますが、彗星の動きに合わせたガイド撮影を、彗星核を使わずに恒星を使って行うという画期的な方法です。核が暗い時やボーッと広がつて点像でない時などに使用すると、大変簡単に彗星の動きを追尾できるのです。

シャコビニ・シンナーやハートレー・グッド等、地球に接近して動きの早い彗星を写した際、10分～20分露出でも長くのびた像となつてしまい、彗星らしく写ってくれないので困りました。

ハレーに会いにオーストラリアまで来春出かけるつもりの私にとって、美しい尾を引いたハレーの姿を、しっかりと写しとめる事は何にもまして大切な課題として浮びあがつてきました。ここまで来たら、少しでも美しく写りそうな方法は全てマスターしておかねばなりません。そうです。「何が何でもメトカーフ!!」なのです。

来年4月の最接近時、ハレーの恒星に対する動きは、1分間に11"角に達します。タイプI、タイプIIときれいに分離して見えるはずの「ハレーの尾」を思ひうかべながら、「ハレーのハの字」も見づに只ひたすらガイド星を見つめる日々が、もうしばらく続きます。

やってみました。「メトカーフ」・・・

2～3度試みただけで報告を書くのは早過ぎるかも知れませんが、失敗や不勉強を人前にさらけ出す事でお役に立ったり、助言を得る事で進歩(?)して来た私の人生ですから、偏見込みで書きります。結論から言うと高橋のメトカーフ用3mmアイピースと天頂プリズムには、今少し改良が必要だと思います。

1. アイピースの目盛は、かなり狭い間かくでセンターホールの両側に10本程度ずつ配してあるが、2～3目盛位までは良いのだが、それ以降になると1目見ただけでは何目盛目なのかがわからず、スタートした時の目盛をおぼえていておいて、何度も数えなおす必要があり、とても疲れる。せめて5目盛ごとの線を少し長くしてもらえると助かる。

2. 今のきざみ方では、1000mmガイド鏡で20分(3.3"/分のとき)、2000mmなら10分しかメトカーフできない。もう少し目盛の数を増やしてはどうか。

3. 天頂プリズムには度盛リングはあっても指標がない。どう使うのかな・・・?

私がやった限りでは、一般的のガイドよりもかなり神経を使う（目盛を数えるから）感じでした。もう少し楽を出来ると良いのですが・・・宮本さんなどは「観賞用には、むしろ恒星時ガイドで星の流れてない方が良いのでは・・・」と冷たい事を言って居られます。（11月19日、記）

ハレーにひとこと

★アイラス・アラキ・オルコックみたいだったが、76年の年月の重さとはこんなものかなあとい
う気がした。どちらにしても感動。できれば国外に脱出したいヨ。 （木下）

★感動です！ 写真がとりたい。 （松永）

★日、一日と装いを新たにして、ハレー彗星は美しくなる。その変身ぶりを写真にとって残したい
と思います。 （宮本）

★イーピンみたいな姿に感動してしまいました！ （松崎）

★約1ヶ月前に見たあるかないかの姿に比べ、はっきりしてきた。これからどこまで明るくなるか
楽しみです。 （富永）

★ハレー見たぞー！ （松本）

★思ったより明るくなっているのにはおどろいた。 （高木）

★76年前とあまり変りなくて安心しました。 （小林J）

★写真展用写真ができた〃 （渡辺）

★8月に熊日に写真が載った頃と比べて何と明るくなった事か！と今日の明るさに正直言って驚いて
いる。半年前から「ハレー！ハレー！」とさわいできましたが、これでどうやら石を投げられないで
済みそうだ。12月、1月、2月、3月のさわぎを無事にかけ抜けて、オーストラリアで納得の行
くまで観るぞ！ハレーを！ （TSU）

★感想？ いやー、とにかく淡くて小さかった。なんたって何百万キロのかなたからやってくるん
やもんな。ちなみに、熊本で最初にハレーを見た大学生はオレだと言って数日間うかれていたのは
私です。 （GPX）

★初めてハレーを見た時はそこにハレーがあるのかないのか分かりませんでしたが、見えたことに
しておこうと思いました。 （森）

★「どこにあるんですか？」「真ん中にはうっとしとるのが見えんかい？」「ああ、そう言われ
ば、何か雲みたいなのがあるような、ないような、あると思えば見えてきて、ないと思うと消え
しまう。もしかして彗星って、観測者があるぞ、あるぞと思うから、出現するんじゃないですか」

ハレーがまだ暗かった頃の天文台での会話でした。 (高田)

☆感想といつてもまだ小さくて「涙がチョチョギレルほど」の感動はなかったけど、でも76年ぶりの接近であることには多少他の彗星よりは感動を覚えた。これからが楽しみ!! (古川)

☆もう見える頃だと、のぞき始めて5日目の11月8日、空がやっとすっきり晴れ、自作の16センチ反經で、初めてハレー彗星が見えました。星像は上等とは言えないけれど、自分で一生懸命磨いた鏡だと思うと、目を細めて見たくなるものです。早速、女房にも見せてやったのですが、"うん、見えるよ"といった程度。これ程有名なハレー彗星だけど、一般の人にはもっと明るく大きくなってから、見てもらった方がよさそうですね。

ハレー彗星さん!早く明るくなってくれよ!との多くの人々の願いがかなってか、11月18日には3センチ8倍の双眼鏡でも見える明るさになってしまいました。でも、ちょうど衡。尾は見えない時期ですね。19日の新聞には、6.8等で肉眼でも見えた!という記事がありましたが、私たちの肉眼でも見える日は来るのでしょうか? でも、期待しましょう。 (永井)

☆思ったより期待した程明るくないけど、【・】を使って見たハレーはすごい。ちょっと見てる間にどんどん動いて行くのも分かる。す、すごい。 (中川)

☆11月9日、自宅の10cm反射で見たものが最初でした。なにしろ、自作の(鏡も)望遠鏡で見えたのだから喜びもひとしおでした。ずい分明るいものだと思いました (長谷)

☆第一印象、「フーン これが世の中を騒がせているハレーか、昔ほうき星は禍いをもたらすときらわれていたのに今は大歓迎 世の中かわったな」 (安達)

☆世の中、ハレー・ハレー!と騒いでいるが、あまりにも、はしゃぎ過ぎではないのだろうか。ハレーに便乗した商法が多過ぎる。望遠鏡メーカーまでもが商魂たくましく、いざ売らんかなの構えである。ハレー後が思いやられる。 (山本)

☆あ~, ハレーが、ハレーが飛んで来る。お金が飛んで行く。 (編集部)

----- 来台された一般の人達の声 -----

- 76年に一度しかこないから、見てよかったです。
- まちにまたハレー彗星を初めてこの目で見て大カッゲキ!! 今度は、しっぽのあるのを見たいナ。
- 少しほんやりとしていたけど、とてもきれいだった。
- ほんとうに動いているのかなあ。
- 76年に一度のハレー彗星を見る事ができてとてもうれしいですね 3月がたのしみです。
- はじめて見たのであまりわからなかったけど、おもしろかった。

自己紹介

児島康子

皆さん、初めまして。児島康子です。私が、例会に通っている頃は、植田康子でした。2年前に結婚し、長崎で、高校教師の主人と謙一（息子）の3人で暮らしています。私の住んでいる昭和町の家は、車が通る道から、坂道を5分ほど登りつめた丘の上にあります。車が通らないため、とても静かで、昼は、バードウォッティング、夜は、天体観測をしています。

天体観測は、主に東側でしています。我が家は、全く民家がないため、気がねなく観測できます。1年前に10cmの反射望遠鏡を購入し、この1年間で土星・木星をはじめ、いろいろな星を観測しました。しかし、私は機械に弱く星に焦点をあわしてくれるのは主人なのです。夜空に向かって、主人に「あの星が見たい」と言うと、主人がその星に焦点をあわせ、私はただそれを眺めると言う状態なのです。望遠鏡の操作も何度も試みてみましたが、なかなか思うようになりませんでした。

私が、星に興味を持ち始めたのは、7年前の黒髪祭の夜で、一緒に歩いていた人から、「あの星、何かわかる？」と聞かれ、「北斗七星」と答えると、「北斗七星しか知らないのだろう。あれは、オリオン座」と、教えてもらったのがきっかけでした。彼らは、シリウスやいろいろな星も教えてもらい、その事がきっかけでますます星に関心が深まりました。

あれから、7年の月日が流れ、私も25歳となりました。去年、望遠鏡を購入したと同時に、主人も天体観測をするようになりましたが、今では、知識も主人に追いぬかれ、もっと勉強しなければと思っています。今晚（11月4日）も観測しましたが、ハレー彗星を見つける事ができず、少々残念でした。しかし、プレアデス星団とM42は観測しました。いつ見ても、すばる星の美しさには感動します。皆さんは、天体の知識も豊富の事と思いますが、私のような初心者には小学生向けの学研の「星の星座のひみつ」という本がわかりやすく、とても参考になりました。

長崎に住んでいますので、皆さんとお会いする機会は少ないと思いますが、長崎にお越しの際は御連絡ください。では、このへんで、自己紹介を終わりたいと思います。

天文台日誌より

10 / 9 新入会員で蒂山の中学生が自転車で来台。写真を写したいとのことだったが来客多数でついに断念。またの機会に...（艶島）

- 10/12 天気予報は“くもりのち雨ところにより強く降るでしょう”ところが大はずれ、ビデオカメラをとりに来ただけだったのに。 (永井)
- 10/18 M42が網のようだった (TOM)
- 10/22 久しぶりに31センチに触れ 禁断症状のため手がふるえた。ハレーは今日も見れんかった (永原)
- 10/27 月齢14の月が明るくて見るものがなくて苦労する。今夜のお客さんのうち半数は6時30分ぐらいにいらっしゃいました。 (木下)
- 10/31 NHKの取材がある ローカルニュース。曇のため木星と月がときたま見えるだけで、あとは何も見えませんでした。 (渡辺K)
- 11/1 帰りぎわ観測室にムカデ発見、しかし見失う。みなさん注意！ (TOM)
- 11/2 Ho氏より電話有り。Ho氏談「阪神優勝うれしいな！」 (渡辺T)
- 11/11 きっと戸閉等が嫌なのだろう。サーッと潮が引くように皆帰ってしまった。片づけ物をして念の為朝まで晴れ間を待つことにする。 (小林J)
- 11/19 来台者多數、7時10分前から9時半すぎまで約60~70人 (岩田)

インフォメーション

○ハレー彗星キャラバン(チロ望遠鏡がやってくる！)

日時：12月10日(火) 16時～22時

場所：熊本城三の丸市民の森

望遠鏡：チロ望遠鏡(84cm反射赤道儀)

51cmドブソニアン

31cm反射双眼望遠鏡(ムク&モク)

20cmフォーク型反射赤道儀

12cm屈折双眼望遠鏡(日本光学製)

来熊されるのは、白河天体観測所の藤井旭さんのか、

国立科学博物館 村山定男先生

太陽観測 小山ひさ子先生

福島天文同好会 大野裕明さん

岡田好之さん

その他、流星観測の富岡啓行さん

星の手帖の阿部編集長

スカイウォッチャーの小西編集長

などの方々が来られます。
延期や中止はありませんので、ぜひ、当日上記の会場へお越し下さい。
なお、会員用の入場券を同封しますので、参加される方は、当日必ずご持参下さい。

編集後記

YOSHINO

ハレーが来れば異変がおこる。たしかに!! 阪神優勝、信じられないライオンズの敗退、メキシコ大地震、コロンビアの火山爆発、若島津3勝、福岡県にコブラ出現、工藤さんの御結婚(ごめんなさい!)、星屑の原稿が増える(予定)などなどなど。みなさんの身の周りにも普通でないことが起ってはいませんか?!

さて、今や天文界はハレー彗星一色といったところですが、みなさんの観測状況はいかがですか? 私も先日ハレーがブレヤデス星団の近くにいるということで、双眼鏡でまずブレヤデスを入れて、そのあたりを散策すると、ありました、ありました。明るいですねー。私にとって双眼鏡で見た彗星は初めてなので感動もひとしおでした。天文台でも、来春の再接近にむけて、オーストラリア、サイパン、近くは沖縄などでの観測計画が着実に練られているようです。今後のハレーのレポート等楽しみですね。

最後に、天文台へあまり来台されない方々のハレー彗星あるいはその他の事についての記事を心待ちしています。今から寒さがきびしくなっていきますが、風邪などに注意して、観測にがんばって下さい。



熊本県民天文台「星屑」 1985年11月 通巻第132号

発行所 熊本県民天文台 ☎ 861-42 熊本県下益城郡城南町

TEL 0964-28-6060

熊本県民天文台事務局 ☎ 860 熊本市古京町3番2号 熊本博物館内

TEL 096-324-3500

編集担当 YOSHINO/YOSHIDA/FUKUOKA

ハレーすい星の観測と 新年会　の　ごあんない

予想以上に明るくなったハレーすい星を、もうご覧になりましたか？まだ31cm反射で見ておられない方は、ぜひ、この機会にご覧下さるようご案内致します。

言己

○ とき：1月4日 16時

南熊本農協駐車場に集合。

ただし、天文台へ直接おいでの方は、

17時までに天文台へ。

○ ところ：熊本県民天文台

☆ ハレーすい星の観測

18時～21時

◎ 新年会

21時～… おでん、その他。

会費…1人—1000円。

※ 夕食は各自適当に。

※ 曇・雨天の場合、早めに新年会を始めます。

※ 大雪の場合は、途中の道路が通れませんので、
全部中止します。

(ただし、代わりの日を考えます。)

⊗ 天文台は、12月29日から1月4日まで、
一般公開をお休みします。

昭和60年12月26日 熊本県民天文台

熊本県民天文台会員用

☆チロ望遠鏡で
ハレーすい星をどうぞ

とき：昭和60年12月10日（火）

16時～21時30分

（なるべく20時までにお出で下さい）

ところ：熊本市古京町 熊本城三の丸市民の森

（熊本博物館西側広場）

※防寒のご用意をお忘れなく。

ハイヒールはご遠慮下さい。

※雨天や曇りの場合でも、チロ望遠鏡そのものは見られますので、どうぞお出で下さい。



◎このハガキが入場券になりますので、当日は必ずご持参下さい。

11月28日 熊本県民天文台事務局
熊本市立熊本博物館